

中学校 実践例

主題名
教材名

「強く気高く生きる」(よりよく生きる喜び)
「足袋の季節」 (日本文教出版「明日を生きる2」)

道徳的価値について

- 誰の心の中にも弱さや醜さがあると同時に、それらを克服し、自分に誇りをもって気高く生きたい、良心に従って人間性に外れず生きたいと願う素晴らしさももっている。
- 人間としての生きる喜びとは、自己満足ではなく、人間としての誇りや深い人間愛や崇高な人生を目指し、同じ人間として共に生きていくことへの深い喜びでもある。

生徒について

- 自分に自身が持てず、劣等感を抱いたり、友達を妬んだり羨まし思ったりすることもある。一方で、誰もが心の中に弱さや醜さをもつと同時に、強さや気高さを併せ持っている存在であることが理解できるようになってくる。
- 誰に対しても人間としてのよさを見出し、いこうとする態度や人間としての気高さを追い求めていこうとする心が育ってくる。

教材について

足袋を買いだいたい心からつり銭をごまかし、かすめとってしまう主人公の行動や、その後自責の念を抱きながらも自分に恥じない生き方をしていこうとする姿から、強く気高く生きることについて深く考えることができる。

ねらい

ありのままの人間がもつ心の弱さや醜さを理解し、人間にはそれを克服する強さや気高さがあることを自覚し、人としての誇りをもって生きていこうとする態度を育てる。

指導にあたって

- 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めるために、筆者の心の葛藤をもとに、つり銭をごまかしてしまった心の弱さに共感させた後、人間は誰しも弱さを持ち、それを克服しようと努力する気高さがあることに気付かせていく。
- 自責の念や後悔の気持ちに苦しみながらも、よりよい生き方を模索している主人公の生き方について多面的・多角的に話し合うことで、ここでの道徳的価値についての理解を深めていけるようにする。

板書

The chalkboard is filled with handwritten notes and diagrams. On the left, a vertical note reads: 「諦めず努力する心。自分の心に正直である。前向きな気持ち。人に感謝する心。」. In the center, a diagram shows a cycle: 「返す」 (Return) → 「分かった」 (Understood) → 「返す」 (Return) → 「分かった」 (Understood). A small illustration of a person is next to it. To the right, a large cloud-shaped box contains text about the protagonist's feelings: 「正直に言いたい。後悔してしまつた。後から後悔したくない。」. Below this, another cloud-shaped box says: 「足袋が買えない。思いはしたくない。おぼろげな気持ち。おぼろげな気持ち。おぼろげな気持ち。」. A central vertical note reads: 「足袋の季節」. To the right, a vertical note says: 「よりよく生きる。計画的な学習。次の活動の準備。友達に感謝の気持ち。物事を途中でやめた。」. At the bottom, a diagram shows a cycle: 「取ってしまう」 (Take away) → 「返す」 (Return) → 「取ってしまう」 (Take away). A small illustration of a person is next to it. On the far right, a vertical note says: 「失敗・後悔。よく考えていない。後悔からすればいい。めんどろ。」.

実践記録

	主な学習活動と生徒の反応	指導上の留意点
導入	1 自分が失敗したことや後悔した経験について話し合う。 ・ テスト前の学習が計画的にできなかった。 ・ 友達のことを思って言ったつもりが、傷つけてしまった。 2 本時の学習のめあてをつかむ。 よりよく生きるとは、どのようなことだろう。	○ 事前のアンケートの結果を示し、誰にでもある失敗・後悔の経験とその時の心情を想起させる。 ○ 誰もが充実した毎日、楽しい毎日を送りたいと思っているものの、実際の生活では難しいことがあることを共有し、問題意識を高めさせる。
展開	3 教材「足袋の季節」を読んで、強く気高く生きる生き方について話し合う。 (1) 主人公とおばあさんの言動や心情について感想をもち、発表する。 (2) 主人公の心情やその変化について話し合う。 ア つり銭をとってしまったことについて ・ 寒い思いをしなくてすむ。 ・ きっと、わざとつり銭をくれたんだ。 ・ 正直にお金を返したい気持ちはある。 イ その後の行動について ・ 毎日後悔してしまうから、早く返したい。 ・ おばあさんの生活が苦しくなっていたらどうしよう。 ・ 今さら恥ずかしくて言えない。きっと怒られる。 ウ 苦労しながらもくじけずにやり通せたことについて ・ 失敗を次に生かそうと前向きに考える。 ・ 自分自身の欲をおさえる。 ・ 支えてくれている人に感謝の気持ちをもつ。 ・ 何事にも諦めない気持ちをもつ。	○ 教材を感動的に読み取らせるために、時代背景の分かる資料の提示や登場人物の状況等を補説する。 ○ 強く気高く生きる生き方について、多面的・多角的に考えさせるために、資料の一読後、主人公の心の迷いや弱さ、感動等についての感想を交流し、主人公の悪いことと知りながらもつり銭をごまかした場面に焦点化する。 ○ 道徳的価値の理解を自分との関わりの中で深めていくことができるように、つり銭をごまかした後、自分ならどのようなことを思い、行動するかを考え、友達と交流させる。 ○ 自分自身と違う立場や感じ方、考え方に触れながら、強く気高い生き方について考えを深めさせるために、主人公が大切にした見方・考え方についてグループで話し合う。その際、学級全体でも共有できるように、ホワイトボードに整理させる。
終末	4 学習したことを振り返り、強く気高く生きることについて自分の考えをまとめ、発表し合う。 5 教師の説話を聞く。	○ 人間は弱さ、醜さをもっている一方で、よりよく生きたい願いもあることにも気付かせ、自分の生活を振り返らせる。 ○ 課題が連続発展していくように、余韻をもたせる。

実践を振り返って

【成果】

- ・ 導入でアンケート結果を示すことにより、だれもがよりよく生きたいと思いながらも失敗や後悔があるという思いを共有することができた。
- ・ グループで話し合ったことをホワイトボードに整理させたことで、一人一人の考えを表出させやすくなり、お互いの考えを共有しやすくなり、話し合いを充実させることができた。

【課題】

- ・ 「よりよく生きるよろこび」の内容は、他の道徳的価値との関連がとても大きいと感じた。どのように関連させ、ここでは特に重点的に扱う内容は何かをより明確にしておく必要がある。

